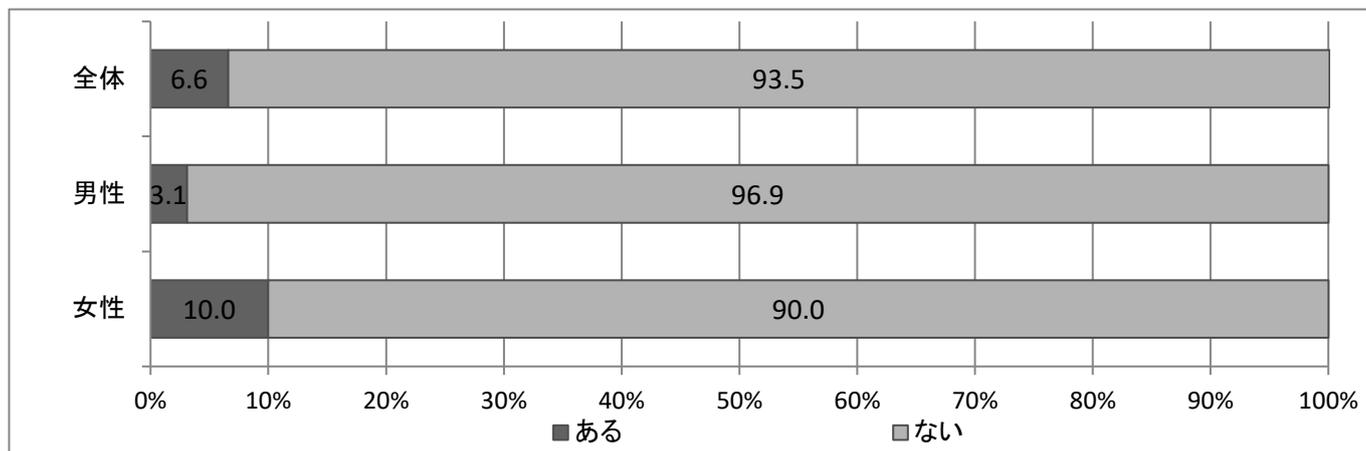


IX リベンジポルノに関する被害経験

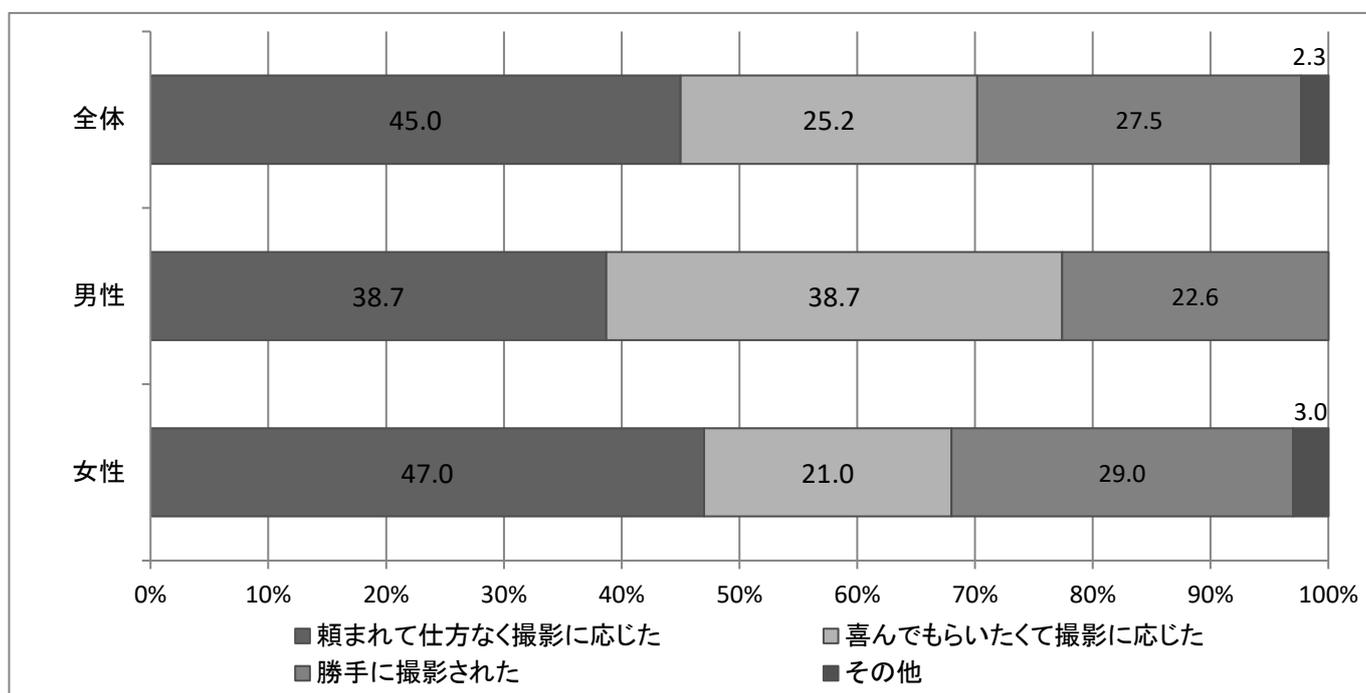
【性的な画像等を撮影・所持された経験の有無】

性的な画像等を撮影・所持されたことがある人（6.6%）のうち、画像撮影された理由について「頼まれて仕方なく撮影に応じた」が45.0%（男性38.7%、女性47.0%）、「喜んでもらいたくて撮影に応じた」が25.2%（男性38.7%、女性21.0%）、「勝手に撮影された」が27.5%（男性22.6%、女性29.0%）となっている。

（問）配偶者や交際相手等に裸や下着姿の画像を撮影・所持された経験がありますか。



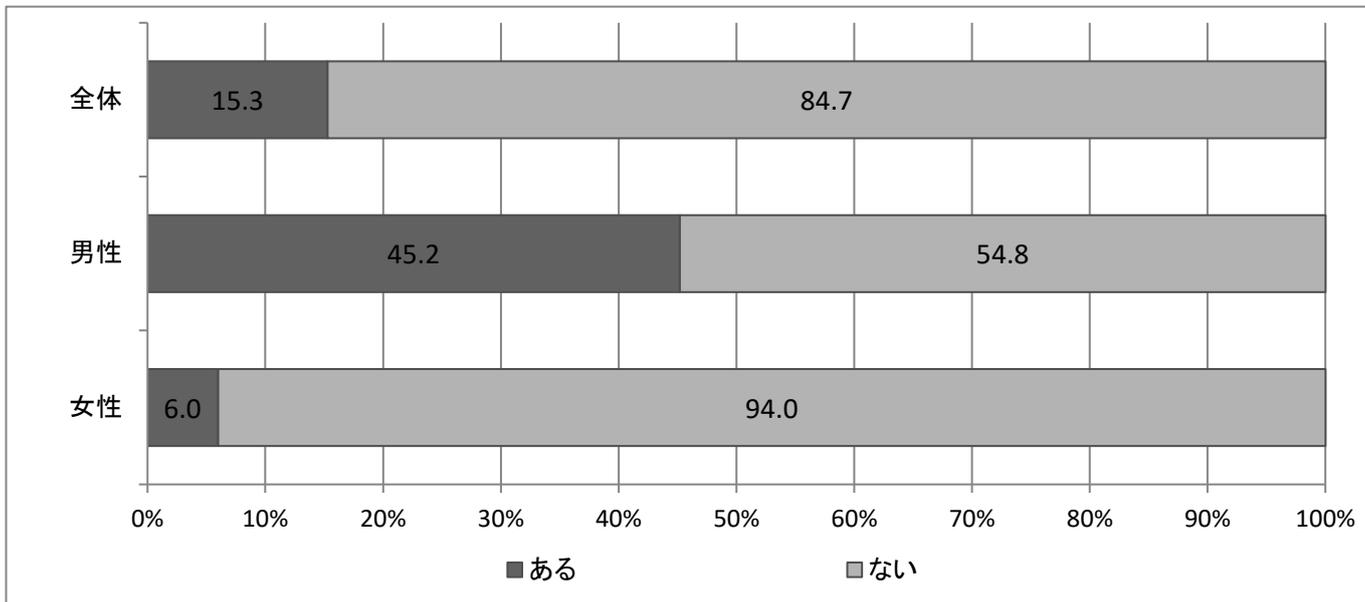
（問）画像撮影された理由は何ですか。



【性的な画像等を公開された経験の有無】

性的な画像等を公開されたことがある人は15.3%となっており、男女別では男性が45.2%、女性が6.0%となっている。

(問) 配偶者や交際相手等に撮影された画像をインターネットで公開された経験がありますか。



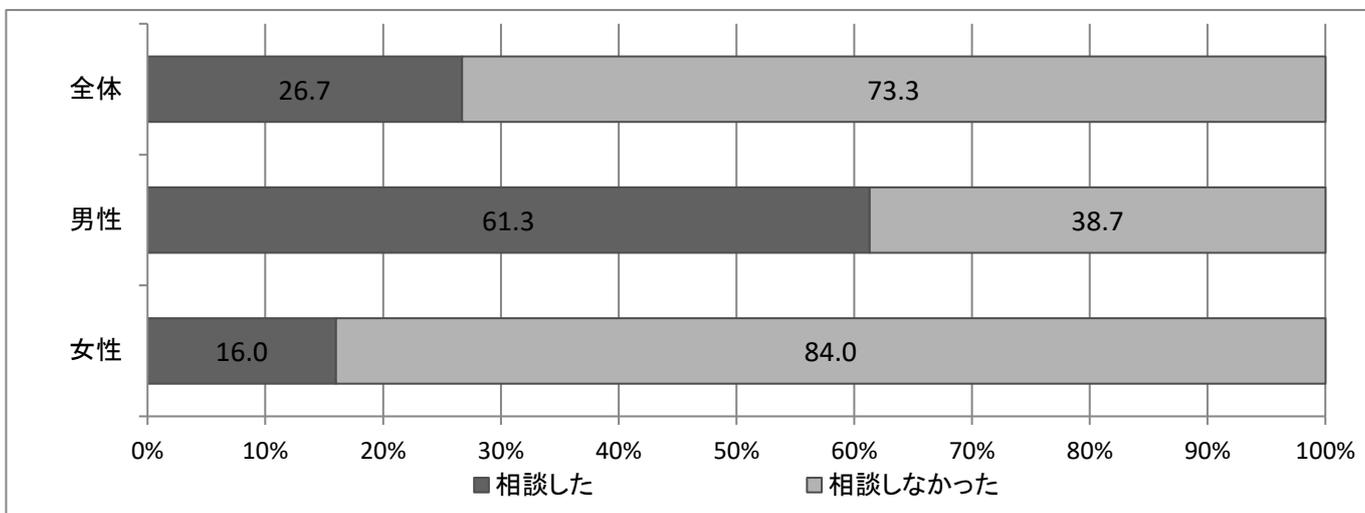
【被害を受けたときに相談したか、相談先】

被害を受けたときの相談については、「相談した」割合は全体では26.7%、男女別では女性が16.0%である一方、男性が61.3%と女性よりも45.3ポイント高く大きな差がある。

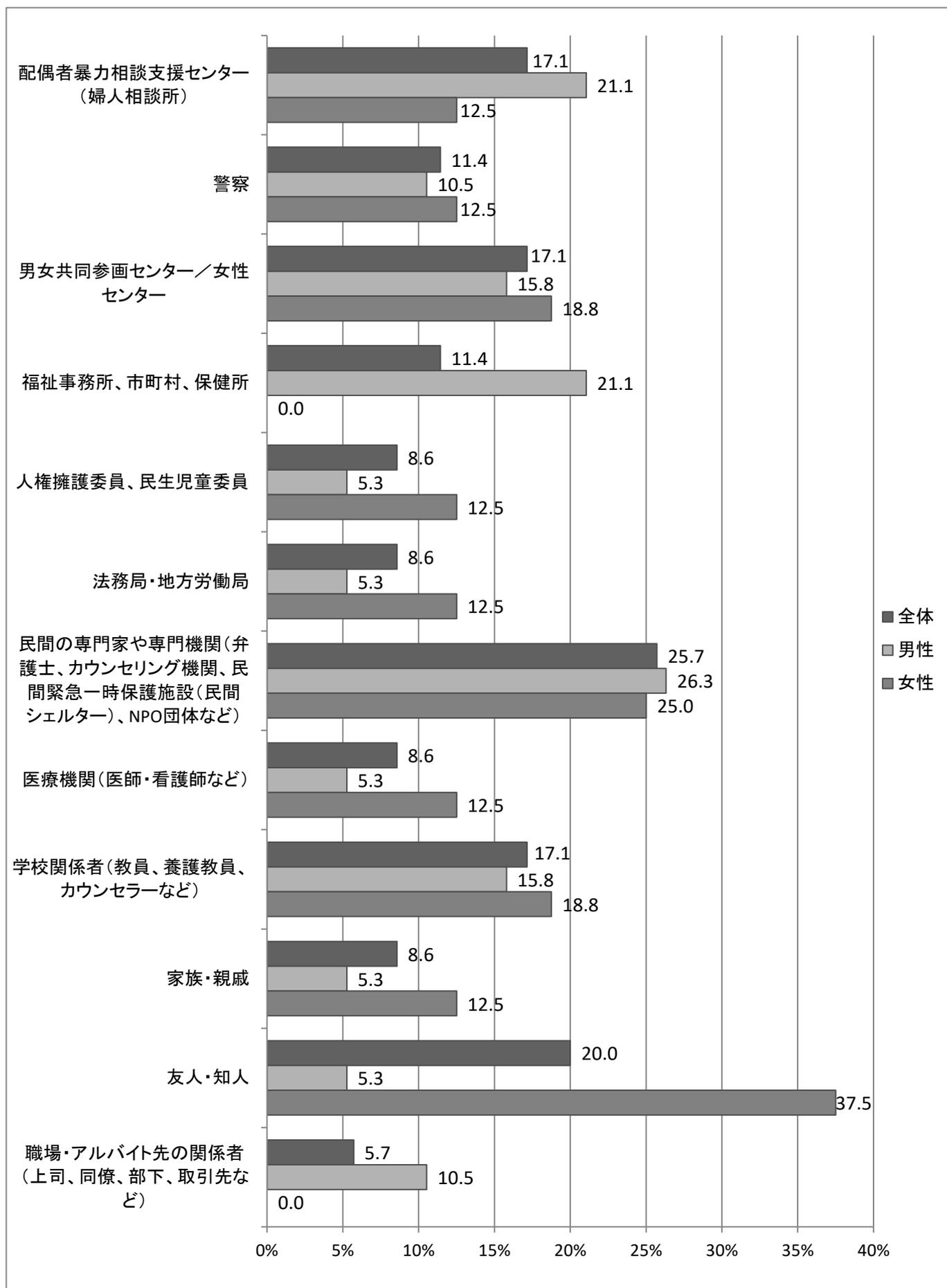
相談した場合の相談先は、「民間の専門家や専門機関」25.7%、「友人・知人」20.0%、「配偶者暴力相談支援センター」「男女共同参画センター/女性センター」「学校関係者」17.1%となっている。

男女別では、女性の方が5ポイント以上高いのは「人権擁護委員、民生児童委員」「法務局・地方労働局」「医療機関」「家族・親戚」「友人・知人」で、男性の方が5ポイント以上高いのは「配偶者暴力相談支援センター」「福祉事務所、市町村、保健所」「職場・アルバイト先の関係者」となっている。

(問) 配偶者や交際相手等に裸や下着姿の画像を撮影・所持されたことについて誰かに打ち明け、相談しましたか。



●どこ（だれ）かに相談した場合の相談先（いくつでも）



【相談しなかった理由】

「恥ずかしくてだれにも言えなかった」が最も高く 35.4%、次いで「相談するほどのことではないと思った」24.0%、「相手の行為は愛情の表現だと思った」19.8%、「相談しても無駄だと思った」17.7%の順で高い。

(問) どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(いくつでも)

